

日本労働年鑑 第55集 1985年版
The Labour Year Book of Japan 1985

第二部 労働運動

XII 公害反対闘争

9 志布志湾公害反対闘争

対策会議と鹿児島県・各省庁交渉

国定公園志布志湾を守る中央対策本部(総評本部、日本社会党中央本部)、鹿児島・宮崎県新大隅開発計画反対共闘会議、志布志湾公害反対連絡協議会の三団体は、一九八三年八月二三日、現地柏原で志布志湾公害反対闘争対策会議をもち、(1)国会闘争、各省庁交渉をふくむ中央対策の強化、(2)一〇月上旬に五〇〇〇人規模の総決起集会の開催、(3)漁業補償金が不当・不法に加算された金額であった場合住民監査請求を起し、その推移をみて住民訴訟の提訴、(4)対県交渉と県議会対策の強化などを決めた。そして、翌二四日、鹿児島県とのあいだで、新大隅開発計画について、「国定公園志布志湾に石油タンクの出島を作ってダメにすべきでない、という現地住民、県民の声を尊重すること。埋め立てをやめ、住民意見に基づき、志布志湾の自然を活かした地域振興策を確立すること。これまでの臨海埋め立て中心の新大隅開発計画を見直すこと」などの申し入れをして交渉をおこなった。さらに、八三年九月一四日および八四年四月二六日に、通産省資源エネルギー庁、石油公団、運輸省、環境庁と交渉をもち、志布志湾における国家石油備蓄基地の建設計画を直ちに中止するよう申し入れた。

志布志国家石油備蓄基地建設阻止総決起集会

前期三団体は共催で、一九八〇年一〇月一日、「自然破壊、税金むだ使いの志布志国家石油備蓄基地建設阻止総決起集会」を地元柏原海岸で五〇〇〇人の漁民、住民、労働者の参加のもとに開催した。集会では、「今やすべての国民の貴重な財産となっている志布志湾を子々孫々に残す責任を果たすため、あらゆる可能なたたかいを強化する」旨の志布志アピールを採択し、そのあと町内を通るデモ行進をおこなった。

日本労働年鑑 第55集 1985年版

発行 1984年12月15日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年8月21日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1985年版(第55集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】